

樂美術館事業報告要旨

平成 29 年度

期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

I 美術館活動事業

1. 作品・資料公開活用に関して（詳細は別紙の通り）

(1) 展覧会活動

- 1) 春期特別展 茶碗の結ぶ「縁」
- 2) 夏期展 樂焼って何だろう？
RAKU WARE - One of the Most Traditional Japanese Ceramics -
- 3) 秋期特別展 名碗 ロシアを旅した樂
樂美術館版 エルミターージュ、プーシキン美術館帰国展
①展覧会関連企画：ギャラリートーク
- 4) 開館40周年 樂美術館 新春セレクション
- 5) 開館40周年記念特別展 能と樂茶碗 幽玄と侘び - 形の奥にある美意識

(2) 手にふれる美術館活動

- 手にふれる樂茶碗鑑賞会、特別鑑賞茶会
親子でお茶一服、親子で見る展覧会 解説とワークショップ

(3) 他機関との協力活動

- 1) 他の美術館・博物館との協力事業
- 2) その他の機関・団体との協力事業

2. 保存・修復に関して

- 1) 水指の修復を行った。
- 2) 箱の作成を行った。

3. 作品・資料収集に関して

- 1) 新規購入作品4点を基本財産に繰り入れた。
- 2) 25点の作品寄贈を受け基本財産に繰り入れた。

II 研究・資料図書公開事業

- 1) 歴代解説小冊子はじめ研究図書資料を前年度に引き続き公開、販売した。
- 2) 『定本 樂歴代』（樂美術館監修・淡交社刊）第3版、『愛蔵版 茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術』（樂吉左衛門著・講談社刊）、秋期特別展記念冊子『かけはし』を発行した。

III 学校・社会教育事業

- (1) 小・中・高等学校への協力活動
- (2) 大学、各種学校のゼミ、研究会への協力活動
- (3) 地域社会への文化事業協力、社会教育活動

IV 入館者数状況

I 美術館活動事業 1. 作品・資料公開活用に関して (1) 展覧会活動

館展示事業

- 展示事業 1 春期特別展 茶碗の結ぶ「縁」** 平成29年3月4日～6月25日
- 千家と樂家の今日まで続く「縁」は、千利休が初代長次郎にもたらした。その後の本阿弥光悦との出会いも、徳川将軍家や前田家などの有力大名と縁をつなげ、引き合わせるなど大きな意味を持った。千家お家元の手造茶碗を始め、本阿弥光悦や徳川治寶侯の作品、15代吉左衛門と萩焼15代坂倉新兵衛氏がコラボレーションした茶碗など、樂家における様々な「縁」ある作品を紹介した。
- 展示事業 2 夏期展 樂焼って何だろう？** 平成29年7月1日～9月24日
RAKU WARE - One of the Most Traditional Japanese Ceramics -
- 初代長次郎の黒樂平茶碗『隠岐嶋』や3代道入の黒樂平茶碗『燕児』、9代了入の赤樂茶碗 古稀七十之内や、実際に使われている窯道具なども展示され、樂焼に見る特殊性を歴代の作品のみならず、その作品の生み出す道具や素材からも読み解くことができる展覧会となった。
- 展示事業 3 秋期特別展 名碗 ロシアを旅した樂** 平成29年9月30日～12月24日
樂美術館版 エルミターージュ、プーシキン美術館帰国展
- 2015年にロシア・エルミターージュ美術館、プーシキン美術館にて巡回した展覧会の樂美術館版帰国展。初代長次郎作 二彩獅子（重要文化財）を始め、初代長次郎作 黒樂茶碗 万代屋黒、3代道入作 黒樂茶碗 青山（重要文化財）などの樂焼を代表する名品と共に、ロシアの子供たちが描いた絵や、制作した黒茶碗も展示。
- 秋期特別展 関連企画 「15代樂吉左衛門 ギャラリートーク」 全6回開催**
館長樂吉左衛門が展示作品やロシア展の様子などを解説。
10月 6日（金）参加者11名、10月13日（金）参加者 7名、10月20日（金）参加者16名、
11月10日（金）参加者28名、11月17日（金）参加者22名、12月 1日（金）参加者28名
- 展示事業 4 開館40周年 樂美術館 新春セレクション** 平成30年1月6日～3月11日
- 平成30年で開館40周年を迎える樂美術館は、14代覚入によって開館された。覚入は、次の時代の多くの人の為に一般公開することで、「茶道」という文化、その中にある樂茶碗という焼物、また様々な茶道具から窺える日本特有の文化が持つ魅力を伝えたいという想いを強く持っていたが、それは15代吉左衛門へと引き継がれている。開館40周年と新春にちなんだ作品を紹介した。
- 展示事業 5 開館40周年記念特別展 能と樂茶碗** 平成30年3月17日～3月31日（6月24日まで開催）
幽玄と侘び - 形の奥にある美意識
- 室町時代は固有の文化・美意識を生み出した日本の歴史上特筆すべき時代です。鎌倉時代に確立した武家政権は、室町時代に政の中心を京都に移すことにより、公家文化とも融合、また禅などの精神性とも結び付きながら、枯淡で雅な味わいを持つ幽玄や侘茶など、新たな武家芸を生み出しました。中でも能と茶の湯は、表現を異にするジャンルとは言え、共通する美意識に貫かれ、互いに影響を与えています。本展では金剛能樂堂に協賛いただき、能と茶の湯、特に能面と樂茶碗に焦点を当て、作品を通じて幽玄美と侘びの共演、共通する美意識を探ります。（開催中）

I 美術館活動事業 1. 作品資料公開活用に関して (2) 手にふれる美術館活動

1. 手にふれる楽茶碗鑑賞会

当館所蔵の作品を手に触れて鑑賞する。当館所蔵作品は、茶碗をはじめとした茶の湯工芸品である。館付属の小間茶室で茶の湯道具組を再現、その後広間に移動し、作品を手にとって鑑賞。作品の解説、質疑応答を行う。

・開催期日

定例 毎月1回開催 ※但し、8月は休会 (11回実施)

・参加者 各回 計約30名

【特別開催】 (10回実施)

5月13日 ルイ・ヴィトンホスピタリティ 6名 (副館長対応)

9月3日 淡交会 大阪四青年部連合会 38名

9月24日 淡交会 大阪四青年部連合会 76名

10月10日 トワイライトエクスプレス瑞風 おとなび 26名

10月29日 京都ホテルオークラ「季節の旅」 16名

11月4日 三河知新会「秋の美術館めぐりバス旅行」20名、大和園 13名

2月20日 淡交社文化事業部主催 淡交ツアー 41名

3月3日 裏千家淡交会青年部全国ナショナルコンフェレンス2018 (館長対応) 28名

3月27日 淡交社文化事業部主催 淡交ツアー 40名

2. 特別鑑賞茶会

当館所蔵作品を用いての茶会形式による作品鑑賞会。館長による作品解説、質疑応答を行う。

・開催期日 (7回実施)

平成29年5月14日、6月11日、7月9日、10月22日、12月3日、平成30年2月4日、3月3日

・参加者 各回 計約70名

【特別開催】 (2回実施)

10月21日 特定非営利活動法人「和塾」 19名

10月22日 フランス 陶芸愛好者の会 10名

3. 親子でお茶一服

副館長楽扶二子が小中学生の親子を対象に特別鑑賞茶会を行い、小間での空間体験、広間での茶の湯体験を指導解説した。実際に古い楽茶碗でお茶をいただく体験に、子供も親も興味津々。緊張しながらも、熱心に質問をしていた。

・開催期日 平成29年5月5日

・参加者 中学生 3名、小学生 17名、保護者 17名

4. 親子で見る展覧会 解説とワークショップ

館長楽吉左衛門が子供達に楽焼についての解説をし、黒窯制作ビデオを鑑賞。その後、子供達は実際に展示中の轆を吹いたり、火鉢を使って内窯から茶碗を取り出したりするなどして窯道具に触れた。粘土で手捏ねの茶碗も制作し、制作後は各々の作品について館長楽吉左衛門が解説した。遊び感覚の中で子供の自発的な観察力を発揮させるよう工夫を凝らした。子供達からは活発な質問も多く見られ、盛会であった。

・開催期日 平成29年8月13日

・参加者 中学生6名、小学生14名、幼児5名、保護者32名

I 美術館活動事業 1. 作品資料公開活用に関して (3) 他機関との協力活動

1. 他の美術館・博物館への出品・講演など協力活動

- ・東京国立近代美術館 「茶碗の中の宇宙 樂家一子相伝の芸術」
平成29年3月14日～平成29年5月21日
初代長次郎作 二彩獅子（重要文化財）他、合計62点を出品協力
- ・東京国立博物館 特別展「茶の湯」
平成29年4月11日～平成29年6月4日
初代長次郎作 黒樂茶碗 銘 万代屋黒、 3代道入作 黒樂茶碗 銘 残雪 を出品協力
- ・佐川美術館「樂吉左衛門館10周年 樂吉左衛門展」
平成29年4月1日～平成29年9月10日
15代吉左衛門作 焼貫黒樂茶碗 銘 滲雲 を出品協力

2. その他の機関・団体との協力活動

- ・公益財団法人 京都市観光協会「京の夏の旅2017 -朝の禅寺特別拝観と樂焼の世界-」
バスで京都市内の半日コースを巡る。美術館の館内見学と、樂家の暖簾前までの特別見学。
7月 2日 参加者17名
7月 8日 参加者14名
7月23日 参加者34名
7月30日 参加者28名
8月19日 参加者45名
8月26日 参加者34名
8月27日 参加者34名